



# 町民から町長へ 2回目の通信簿

山本孝二町長のマニフェスト（公約）を町民が採点して公表する「第5回マニフェストまちづくり大会」が11月28日、カルチャーセンターで開催されました。

大会では、町民有志の評価検証チームが項目ごとに評価点や問題点を整理して、山本町長の「まちづくり通信簿」を発表しました。

評価検証の方法は、マニフェスト58項目の中から10項目を選定して、検証作業を実施。検証作業は▽アンケート▽町担当課ヒアリングなどを行い、▽住民への周知・説明▽課題の解決▽地域の分権・自立▽町長のリーダーシップなどの10項目で採点しました。

町民の評価点が最も低かった項目は、「ボランティア活動の充実」で、29点と厳しく採点しました。問題点を「ボランティア支援が福祉課だけでは全分野のカバーが不十分」と指摘し、協働推進課やNPO、ボランティア支援課などの専門の課・係の設置が必要と提案しました。

一方で、町民の評価点が最も高かった項目は、「読書環境の整備」の73点。児童が町立図書館での貸出冊数や学級文庫などでの読書が増加したことを高く評価しました。

また、町議会議員からも同様の検証結果と、山本町長も自己評価を報告し、それぞれの立場からチェックしました。

このほか、早稲田大学大学院教授・北川正恭氏の講演や出演者全員でのパネルディスカッションが行われました。



## Special lecture

北川 正恭氏

●プロフィール  
きたがわ・まさやす  
三重県議会議員、衆議院議員、三重県知事などを歴任。現在、早稲田大学大学院教授。新しい日本をつくる国民会議代表を務める。65歳

## 新時代は地域から国へ

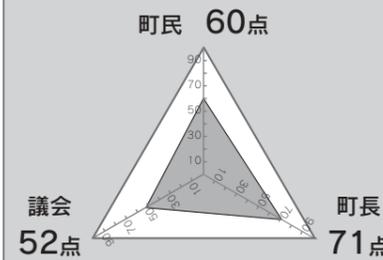
御船では（町を）変えるために「気づく」ことから始めて、「気づいた」ら行動におこし、共鳴して、文化が変わる「良循環」を巻き起こすことが今重要です。新しい時代を地域から国を変えていく、そのきっかけを御船町はつかんだと客観的に思います。ぜひ、この芽を厳しい目線で行政を見て、厳しく議会を監視して、町民にとってすばらしい行政をつくりあげていただきたいと思います。「地域主権」が進んで行くと自治体間に差異が出てきます。今まで慣れ親しんだルールや考え、固定観念を変えていくことを、御船町議会や山本町政は挑戦を始めています。皆さんの税金がどう使われているのかを、御船町と町議会を見ていただくことが「地域主権」を成功させ、地域から日本を変えます。

### 9 農産物の販売体制の推進（農協、とりたて市など）



【評価】 境野 唯子さん  
①認知度が上昇、小売店や生産量が増加②認知度が上がらないと商品開発の依頼がこないことへの懸念③生産者ももっと増え、品質の良い野菜を年中出荷する。その質の良い野菜を使って加工品を増やしていく

### 7 新設七滝中央小学校の特色ある教育環境の確立



【評価】 高橋 恵子さん  
①中山間地の自然豊かな体験学習を積極的に実施。小規模特認校で児童が増加②小規模特認校のPRが不十分③小規模特認校の試行期間を平成26年度以降も継続。町ホームページに地域や学校のことを掲載する

### 5 平成音楽大学、御船高校を中心とした学園都市の構想と、まちの活性化



【評価】 中村 幸雄さん  
①町内の園児から大学生までが参加した「教育フォーラム」を開催②「学園都市構想」ビジョンが、はっきりとは定まっていない③「学園都市」はビジョンが大きすぎるため「芸術、ロボット、恐竜のまち」への修正

### 3 「町民が主役」のサービス提供。職員のやる気と、計画的な職員研修の充実



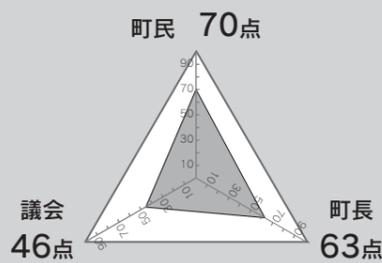
【評価】 渡邊 俊一さん、谷口 利廣さん  
①総合案内の利用者80%が住民サービスに役立っていると回答②総合案内対応職員の接し方に差がある③民間企業への体験研修や町民有識者での研修。地域住民が参加しやすいマニフェスト型自治体運営の研修

### 1 情報コーナーの充実と、「寄ってはいよ、見てはいよ」を設置



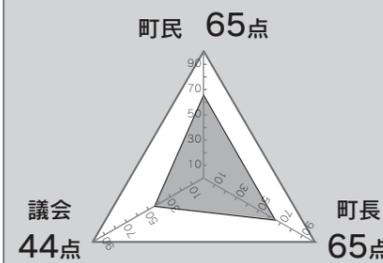
【評価】 田上 忍さん  
①公開可能な公文書を提供している。企画・立案の資料も閲覧の要望がある②情報公開コーナーとその内容の認知度が低い③公開資料のインデックスや更新履歴の新着情報がわかるファイルを作成する

### 10 安全と犯罪のない明るい町づくり。防犯パトロールの強化や防犯灯の整備



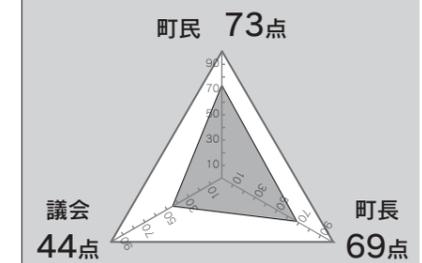
【評価】 境野 雅英さん  
①防犯ネットワークが形成され、安心メール、夜間パトロール、不審者対策など、町民全体での組織化②防犯灯の設置が町予算上限られ全地域をカバーすることができない③防犯パトロール活動の啓発と継続

### 8 地元産の米や野菜を学校給食への利用支援



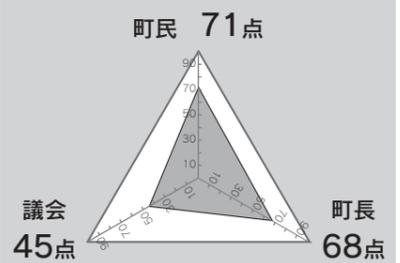
【評価】 本田 洋一さん  
①平成19～22年度で地産地消の日が年5回→月3回、使用が年5品目→月5品目に増加②生産者と学校給食への地元産物の流通体制が不十分③農協との連携強化。生産者側と計画生産を早めに打ち合わせする

### 6 子どもたちの活字・読書離れ問題を教育委員会と協力して読書環境を整える



【評価】 増永 淳さん  
①児童の町立図書館の登録と貸出冊数が増加。学級文庫を含めた学校内での読書も増加②町立図書館の閉館が早すぎて利用の稼働率が低い③町立図書館のスペースや蔵書の増大。恐竜博物館や法務局跡地など再利用

### 4 学童保育に地域のお年寄りが参加して、ふれあいや文化の伝承



【評価】 北永 昭代さん  
①お年寄りの参加も増え、子どもたちとの交流会を楽しみにしている②前回検証大会で「伝承遊びなどマンネリ化している」と指摘されたが新しい企画・事業が未実施④地域サロンや元気クラブとの交流会を検討

### 2 ボランティア活動の充実



【評価】 柴田 恒美さん  
①ボランティア活動支援の課・係を設置②ボランティア支援が福祉課だけでは全分野のカバーが不十分③協働推進課・NPO・ボランティア支援課などの専門の課・係を設置。ボランティアコーディネーターの育成

【評価の内容】 ①評価点 ②問題点 ③提案